

道徳教育の指導法		講義	教授 平沢 信康
科目カテゴリー	スポーツトレーナーコース、スポーツマネジメントコースの教職科目 柔道整復師コースの教職科目 救急救命士コースの教職科目	科目ナンバリング	11520301 12520301 13520301

1. 授業のねらい・概要

教育基本法と学校教育法に定められた教育の根本精神をふまえて、学校の教育活動全体を通じて行うことを原則とする我が国における道徳教育の基本方針の確認に努め、中学校における道徳教育の目標および内容を理解する。

そのうえで、新設された「特別な教科 道徳」の教育課程上の位置づけを正しく把握し、その目標と内容および指導方法・指導計画等を「学習指導要領」に即して理解する。

併せて、講義を通じて道徳に対する自覚と感受性を涵養するとともに、我が国における道徳教育の歴史的変遷と伝統を理解する。

2. 授業の進め方

基本的には、講義内容の概要を記した講義要旨（レジュメ）にそって解説する。必要に応じて PowerPoint を活用してテーマに関係する肖像・画像や文字資料をスクリーンに映して紹介し、そのビジュアルな参考情報を以てレクチャーを通じた知的理解を補う。また『中学校学習指導要領』の道徳の部分の読み合わせを行う。

適宜、指名して口頭試問を行い、受講者の理解の定着を確認・促進しながら進める。

3. 授業計画

1. 「道徳」の定義とイメージ — 諺、標語、モラルとモラルの違い	7. 近代日本における道徳教育の確立
2. 徳・徳育・道徳教育	8. 「教育勅語・修身」体制の展開と崩壊
3. 教育基本法と学校教育法および学習指導要領にみる道徳教育の指針	9. 戦後日本における道徳教育と道徳思潮
4. 歴史と国際比較の観点からみた道徳教育 — モラルに関する伝統文化	10. 無気力と虚脱から「生きる力」を求めて：virtue
5. 前近代日本の道徳教育の伝統と指導法	11. マナーについて— 道徳的規範意識の涵養
6. 明治日本の道徳教育政策—「修身」の登場と教育勅語の起草	12. 躰（しつけ）と礼儀作法・エチケット
	13. 現代日本の道徳教育政策——「道徳科」の成立
	14. 道徳科の指導内容・指導計画と実践
	15. 情報モラルと携帯マナー

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義要旨の pdf 版を事前に配信するので、その該当ページを講義までに読んで予習（30 分程度）しておくこと。また講義終了後は内容を復習し、気になった事項や人名についてはスマホ等で検索して確認する。さらに図書館で学習の深掘りをしていくことが望ましい（1 時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学期末試験の終了後、最高点や注意を喚起すべき事項（多かった誤答など）について指摘した講評をメール配信する。毎回書いてメールで提出してもらうミニ感想文について誤字の添削を行う。

6. 授業における学修の到達目標

1. 道徳に関連する言葉（外来語や外国語を含む）を学び、それらの意味を理解し、正しく読み書きができる。
2. 世界の道徳（教育）の伝統文化について、東洋と西洋を比較して概略その特徴を理解し解説できる。
3. 我国の道徳教育の歴史の大要を理解し説明できる。その際、長らく影響のあった中国の儒教思想について基本的

な知識教養を身に付ける。

4. 近代日本の道德教育政策史について概略説明ができる。
5. 学校教育における「道德」教育の要となる「道德科」の目標と内容を理解する。
6. 道德教育を指導するための素養として、道德的な内容を含む伝統的な諺・格言・箴言を学んで暗唱できる。
7. 道德教育の指導案を構想・作成し、模擬授業の試行を通して、必要最低限の実践的な指導力を身に付ける。

7. 成績評価の方法・基準

レポート（30％）、授業への取り組み姿勢・貢献度・積極的な受講態度（30％）、学期末試験の成績（40％）。
講義は、全回出席することを原則とする。

8. テキスト・参考文献

テキスト：自作レジュメ

参考文献：井ノ口淳三編『道德教育「改訂版」』（学文社、平成28年）

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道德編』（教育出版、平成29年7月）

9. 受講上の留意事項

事前に「教育史」（1年次後期開講）を受講しておくことが望ましい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。